
パラレルワールド

FrangBeat

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルワールド

【著者名】

N Z ノード

N 6 1 5 6 N

【作者名】

F r a n g o B e a t

【あらすじ】

謎の世界に行ってしまった”桃里遊我”。

その世界で不思議な出会いをする。

Episode: 0～始まり～（前書き）

この小説ではオリジナルカードを使いたいと思つてます。
「こんなカード作つてほしい」などありましたら気軽にメッセを飛
ばしてください^ ^

Episode: 01 始まり

- ここは……どこだ……

一人の少年がさまよつていた。

- 僕は……誰だ……

記憶も失いかけている。

- これは……

ただ一つ……

- 僕は……デュエリストだ……

デュエリストであることは覚えていた。

- そうだ……俺は桃里遊我。デュエリストだ……

同時に記憶も取り戻した。

- よし……なんだかわかんないが進むか。

少年は進んでみることにした。

光が見える。

- うわ!!!!

少年は田をふさいだ
-

1話「デュエルモンスターズ」（前書き）

ペガサスが出てきますが、あのお方の語尾がいちいち書くのがめんどいので普通の人間と同じ語尾にしてます。

注意：本田は出ません。

1話「デュエルモンスターズ」

「俺のターン！……ドロ――――！」

最強のデュエリスト。武藤遊戯。

デュエル中。相手は「デュエルモンスターズの創始者“ペガサス”。

「マジックカード！……古のルールを発動！……手札からレベル5以上の通常モンスターを1体特殊召喚する！――！」

「まさか――！」

「そうだ――現れよ――わが最強の下部！――ブラックマジシャン――！」

「行け――！――ブラックマジシャン――！ペガサスにダイレクトアタック――！」

「ペガサス・LP0

「デュエル終了」

「ペガサス……お前のことは助けたぜ……」

「武藤……遊戯……感謝する……」

「ん？？お前そんなしゃべり方だったか？」

「それはこの作者に聞いてくれ……」

「まあ……いいか。」

「おう。城ノ内。」

「遊戯。勝つたんだな。ペガサス！」

「ああ。まあな。」

その言葉だけ言って遊戯はわざと歩いて行った。

「そこから彼の運命が変わる。」

2話「デュエルモンスターズ」（前書き）

2回目ですが、本田は出できません。

2話「デュエルモンスターーズ」

「さて。遊戯。デュエルでもやるわ。」

「ああ。」

「あれ？？遊戯のやつ元に戻らねえな。まあいいか。」

「デュエル！ー！」

「俺のターン！ー！」

城ノ内の先攻。

「黒龍の雛を召喚！ー！生け贅にし、真紅眼の黒竜を特殊召喚！ー！ターンエンド！ー！」

「俺のターン！ー！」手札からマジックカード古のルールを発動！手札からレベル5以上の通常モンスターを特殊召喚！ー！現れよ！ー！ブラックマジシャン！ー！」

「ブランマジか・・・」

「バトル！ー！ブラックマジシャンで、真紅眼の黒竜に攻撃！ー！」

城ノ内克也：LP 7900

「カードを一枚伏せて、ターンエンドー！」

どなんどヒュエルは続き・・・・

武藤遊戯・L.P.2300

城ノ内克也・L.P.4500

「さて・・・・」(1)で出すか・・・・

「??」

「手札からマジックカード、師弟の絆を発動!!自分フィールド上に「ブラックマジシャン」が存在するとき、手札、デッキ、墓地から「ブラック・マジシャン・ガール」を特殊召喚!!」

「何?!!」

「ブラックマジシャンとブラックマジシャンガールでダイレクトアタック!!」

城ノ内克也・L.P.0

「うわあ・・・負けた・・・やつぱり勝てないわ・・・」

「追いつめられたところだつた。強くなつていてる証拠だ。」

ふと突然光がさした。

「うわ!!!!」

城ノ内と遊戯は光に吸い込まれた。

3話「デュエルモンスターーズ」

「ここは……」

「おい！！城ノ内！！城ノ内！！！！！」

「…………ん…………？遊戯…………？」

「ここは一体…………」

「何者だ…………！」

「何だ…………？」

「あ、人か…………良かつた…………」

「お前は？？」

城ノ内が突然聞いた。

「俺は桃里遊我。見たところ君たちはデュエルリストのようだね。デュエルしないか？？」

「あ、ああ…………いいが…………」

「よし！！行くぜ！！！」

「「デュエル！！！」

桃里遊我：LP 4000
武藤遊戯：LP 4000

「俺のターン……ドロー……」

（一体……何のデッキだ……？）

「マジックカードおろかな埋葬を発動！……デッキからキラー・トマトを墓地に送る。」

「闇デッキか……」

「さりに手札断札を発動。手札の＜BP・ゲイボルグ・＞と＜BP・ツインソード・＞を墓地に送りカードを2枚ドロー。」

「BP？！聞いたことないぞ……」

「墓地の＜BP・ゲイボルグ・＞と＜キラー・トマト＞を除外。手札より、BPエンジェルソフィアを特殊召喚！……カードを2枚伏せてターンarend……」

「謎のデッキだな……俺のターン……マジックカード古のルールを発動！……」

「残念。罠カード、BPの遠吠えを発動。」

「何！？」

「手札のBPと名のついたモンスター2体を除外し、相手の魔法・罠カードの効果をむこうにする。」

「くそ！……カードを一枚伏せてターンエンド……」

「ドロー。テッヂ アライブ？を召喚。このカードは戦闘によつて
破壊されたときテッキから悪魔族モンスターを1体墓地に送る。さ
らに、墓地のこのカードを除外することによつてテッヂ アライブ
？以外の悪魔族モンスターを2体墓地に送る。」

「バトル・・・BPエンジニアルソフィアでダイレクトアタック！」

「う！」

武藤遊戯：LP1000

「一気に減るとは……」

「カードを一枚伏せて、ターンエンド。」

（アーティスト）の批評を書いたりする。・・・

武藤遊戯は敗れた。

「どうあえず、ここにいても仕方ない。歩け。」

「ああ・・・」

遊戯、城ノ内、遊我は歩き始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6156z/>

パラレルワールド

2011年12月20日20時55分発行